

新潟古町8

今昔物語

今宵ひととき 思いをはせて



古町通りの商工会（昭和初期）



新潟まつりの情景

大竹座チラシ
(資料提供/大竹座)



新潟まつりの花火



新潟港の図/浮世絵



さくら井前(大正初期)



新潟歴史年表

年号

主な出来事

- 一八四六(弘化3年) 鍋茶屋 創業
- 一八五八(安政5年) 日米修好通商条約締結
横浜・函館・長崎・神戸と共に開港5港に指定される(日本海側唯一)
- 一八六八(明治元年) 新潟港開港
- 一八六九(明治2年) 八百重商店 創業
- 一八七四(明治7年) イタリア軒 創業(現ホテル・イタリア軒)
- 一八七五(明治8年) 大竹座 創業
- 一八八八(明治20年) 羊画廊の前身、油の堀(油屋)開業
- 一八八九(明治21年) 新潟市誕生
- 一八九四〜九五 日清戦争
- 一九〇四〜〇五 日露戦争
- 一九〇五(明治38年) さくら井小間物店 現在地に移転・開業
- 一九一四(大正3年) 明治新潟大火
2度の大火(3月と9月)で初代万代橋消失。
遊郭が古町周辺に移転。
- 一九一八(大正7年) 宝石のダイヤ 創業、
その後現在地にて大正11年から開業
- 一九二六(昭和元年頃) 第一次世界大戦勃発
- 一九三八(昭和13年) 第二次世界大戦終結
- 一九四五(昭和20年) 第二次世界大戦終結
- 一九五五(昭和30年) 8月第二次世界大戦終結
- 一九六〇(昭和35年) 新潟大火
古町5〜7番町が消失する。
- 一九八〇(昭和55年) 西堀、東堀の埋め立て工事着工
64年開催の新潟国体までに全ての工事が完了。
古町どんどんが始まる

江戸時代、古町は京都・大阪・江戸に次ぐ日本有数の遊郭の地として知られていました。やがて北前船が寄港するようになると、水運のための堀も完備され、街は増々大きく発展しました。

明治時代に入って2度の大火に遭い遊郭は場所を移転、法の改正もあって芸事中心の花街へと姿を変えました。東西の堀は荷を載せた小舟が行き交い、白山神社と港を結ぶ古町通りは大いに賑わい、昭和初期には新橋・祇園と並び三大花街と呼ばれるまでになりました。

古町は堀と柳に囲まれた情緒あふれる花街として、今なお多くの人々の記憶の中に残っています。

